

高家

茶湯評林大成

五

858

24

版
入
津
棧



国立国会図書館 タイトル『茶湯評林 9巻』 請求記号 858-24

ガラス使用



858-24

茶湯評林卷之五目錄

風知此大要

庭橋中^テ古風知^テ為茶^ノ事^ノ也

噴橋中^テ角知^テ為茶^ノ事^ノ也

逆橋中^テ知^テ此^ニ為茶^ノ事^ノ也

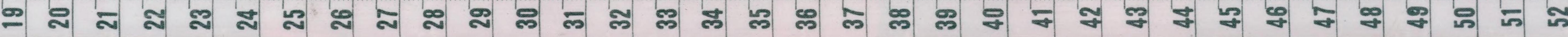
逆橋中^テ角知^テ為茶^ノ事^ノ也

噴橋中^テ長板^ヲ為茶^ノ事^ノ也

逆橋中^テ長板^ヲ為茶^ノ事^ノ也

長板^ヲ為茶^ノ事^ノ也

風知^テ此^ニ為茶^ノ事^ノ也



三疊大織部堂古所茶もあ

一疊半種体堂古所茶もあ

小体部物抄立所茶もあ

選勝軒少体部物抄立所茶もあ

向切部物抄立所茶もあ

惣論

茶湯評林卷之五

風解此大要

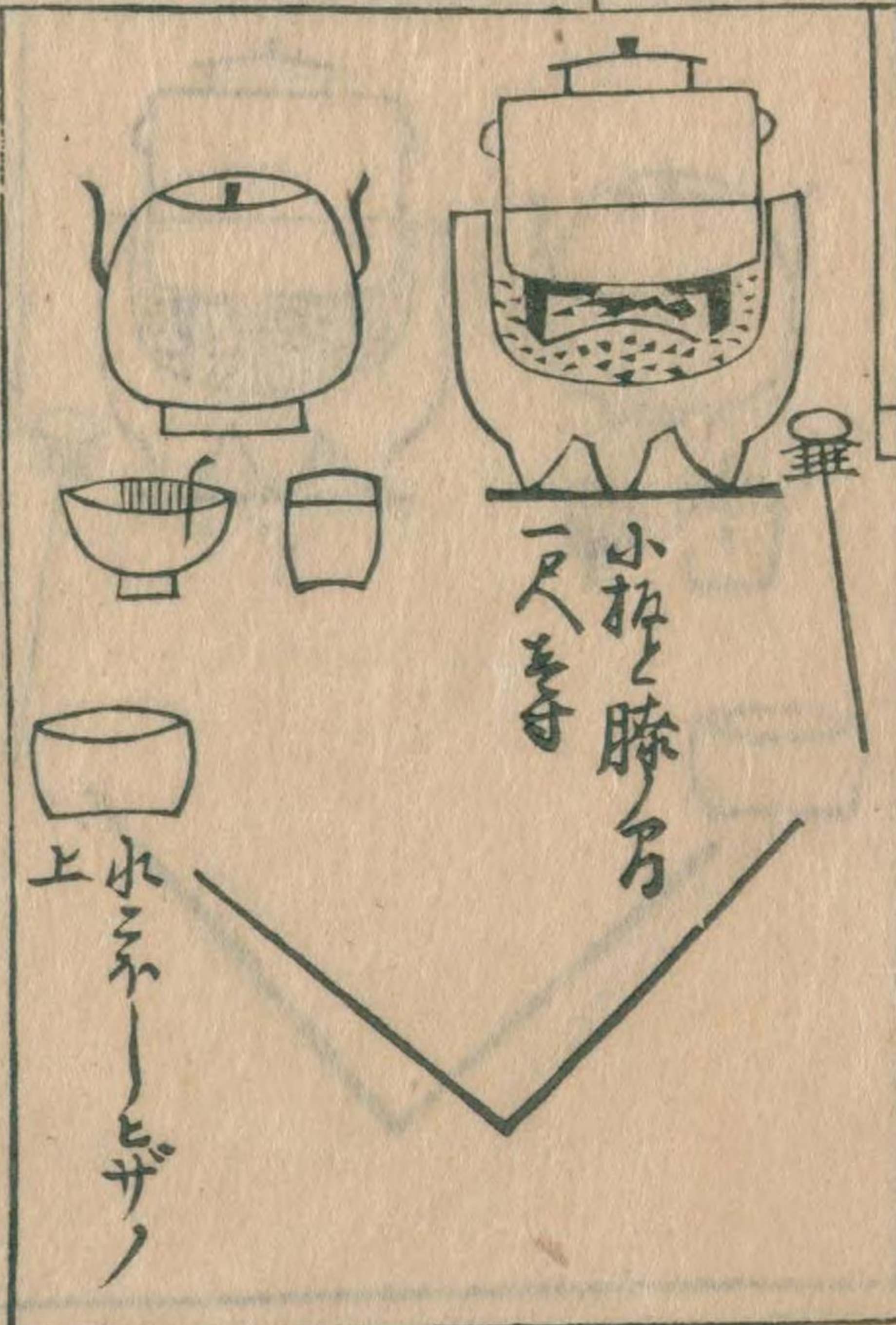
一月月報日ハ衣ズクニ秘ク凡呂ヨクハ月晦日ハ
 凡解此苦之其故 凡解此苦之其故 凡解此苦之其故
 又他人此二階行友と持人ハ解もさる少き由ハ凡解
 藝みりも極めもさる事ハ何れも其故時解より選此
 凡解此苦下ハ所茶もあと高して高しむ根本
 藝子此凡解と何れも是故
 一凡解此小板向此方此板最長と小板此方守ハ長
 おくべし一解の藝月九メハ小板とおくべし



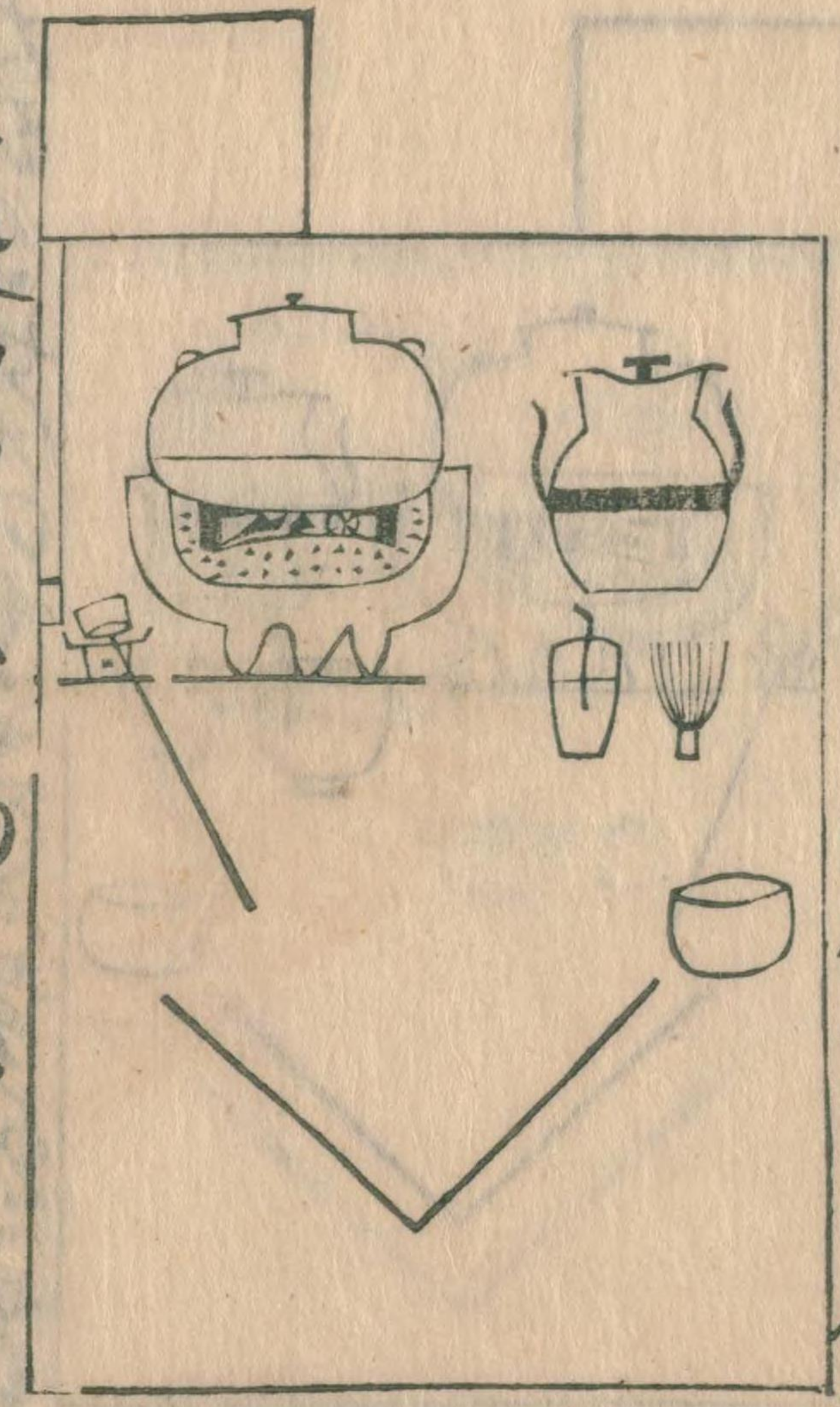
一凡炉方板此向良方計す八歩脇此を月セメニ垂
 け時ハ蓋垂と右板の取ハ部ニ垂り懸
 一蓋垂をめぐ凡炉と茶釜ハ凡炉先ニ二枚厚凡
 て凡炉と蓋垂ニ紙此厚凡ハ綴りてそ尺ハ寸五分
 らるる此をすること面一して縁と明く一色
 紙母尺と強紙ハ部一垂此綴とす一と共ニ
 物此此年ハんごとすべ
 一敷奇屋圍めぐハ厚凡と懸る事
 一物之の鳥前ニ厚其部合綴らるる大筒水筒
 おき

凡炉茶釜の図

一凡炉茶釜良凡炉をせん其此小蓋がらるる如
 此蓋茶碗ハ茶杯のつらざるはるる蓋ハ小板
 此通り垂べ
 水蓋蓋垂入上ノ物
 とひたニ指玉如茶
 おひび向一極ニ垂
 小板と曲尺一してそ尺寸ハ寸五分ハ寸五分ハ寸五分
 らるる右めぐ蓋垂と右茶碗ハ寸五分ハ寸五分ハ寸五分
 と親丸めぐ茶碗取あ方ハ寸五分ハ寸五分ハ寸五分

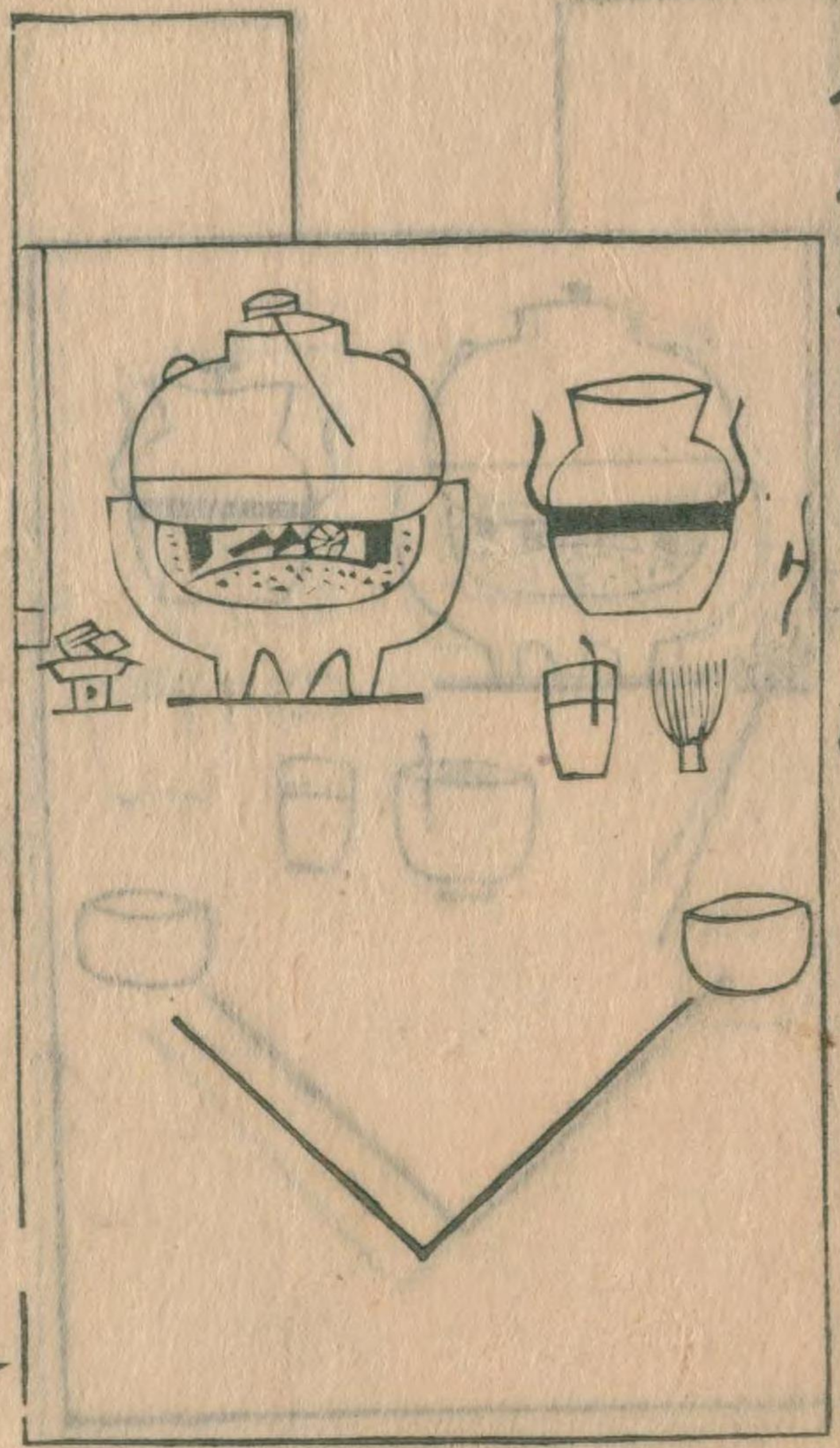


きしはてをへし行拂をこぼしよかへて一物拂け丸
めく茶碗をふし一茶碗およ玉解石を一中い如
茶文茶の茶抄巾ひけ茶碗をあらへひけを及茶此茶を



帛ぬる茶巾一茶此茶よ玉湯一茶の茶碗を
茶碗をさし一茶の茶をあらへ下よ玉茶巾を
茶の茶をあらへ茶の茶をあらへ湯抄巾ひけ茶を

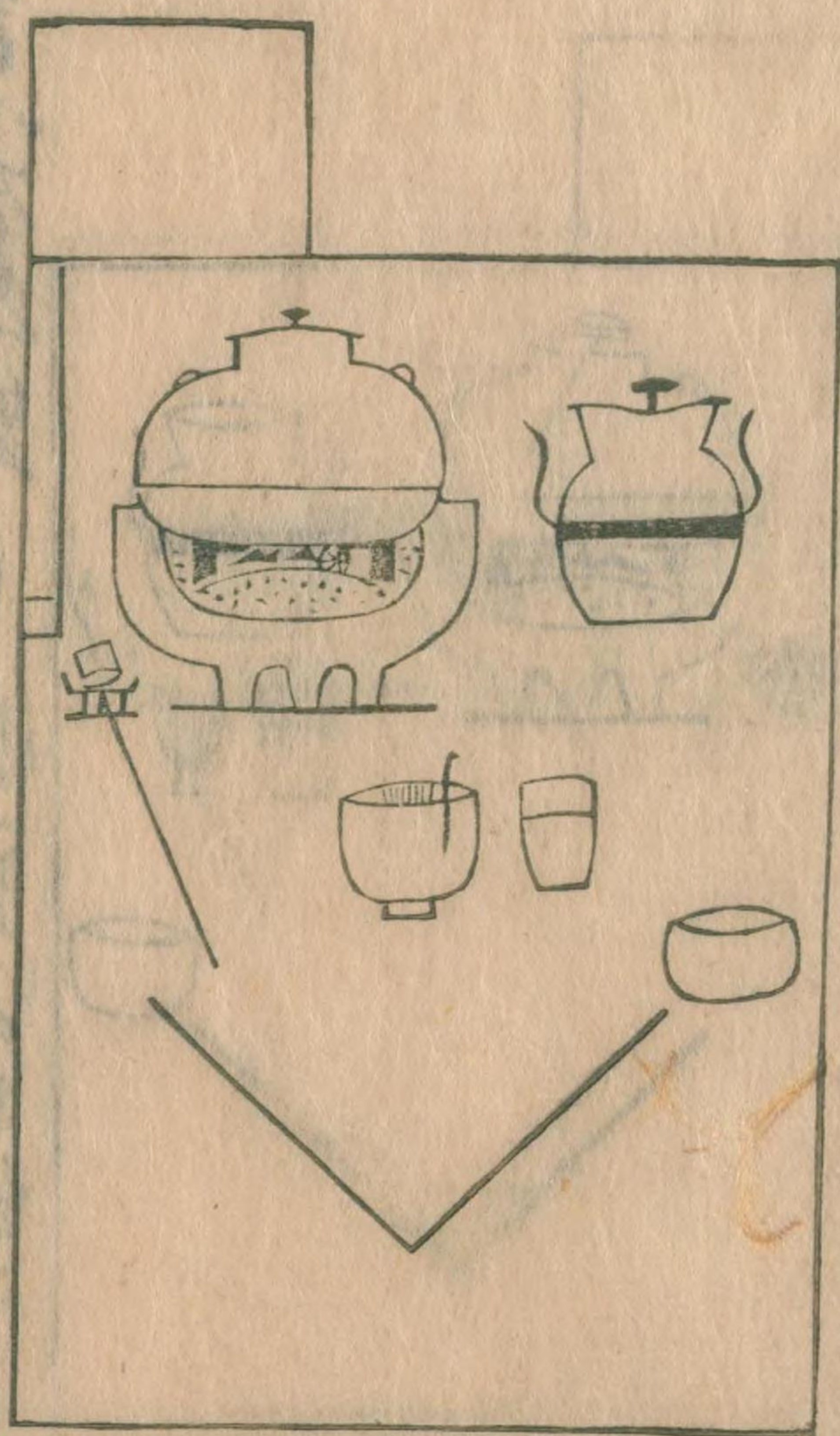
茶の茶をあらへ茶の茶をあらへ湯抄巾ひけ茶を
茶の茶をあらへ茶の茶をあらへ湯抄巾ひけ茶を



茶の茶をあらへ茶の茶をあらへ湯抄巾ひけ茶を
茶の茶をあらへ茶の茶をあらへ湯抄巾ひけ茶を

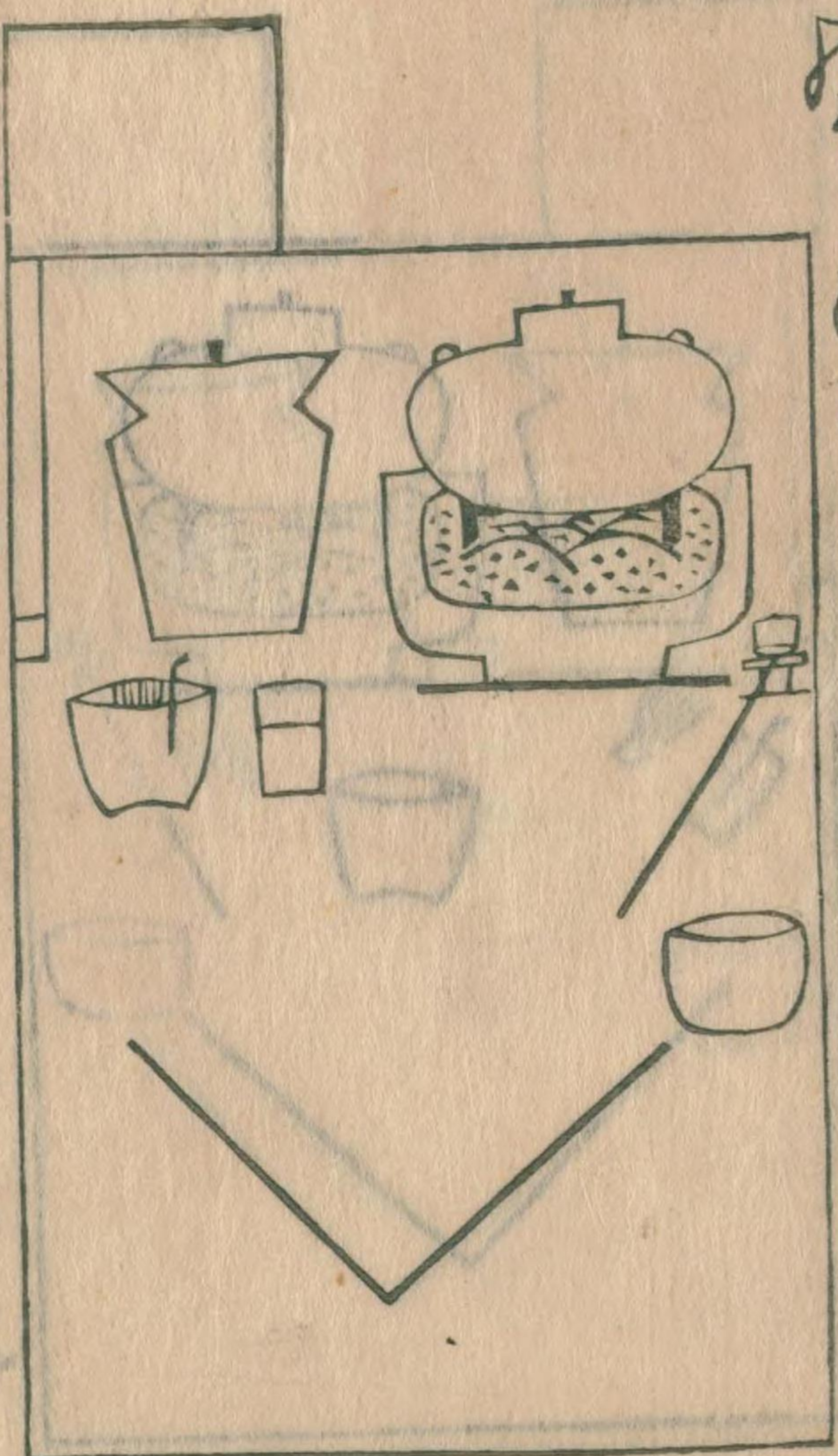


一おはちまんとははよのりる事あり一茶碗此の
まじりぬりの文系の口よのりる事あり一



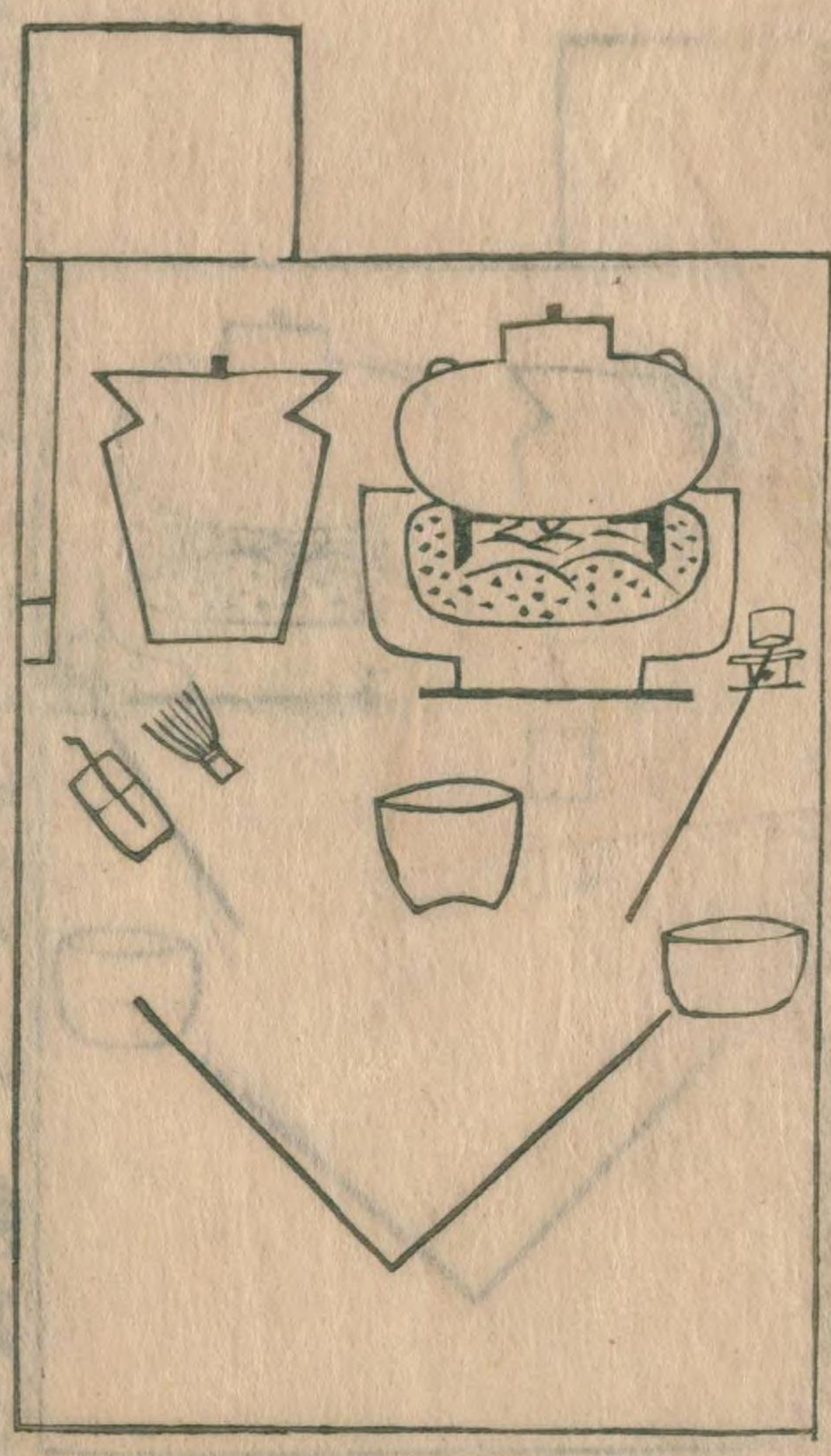
運揚平解の好むもの

一丸登大口の好む事と致ぬるべし一
一凡好む事と致ぬるべし



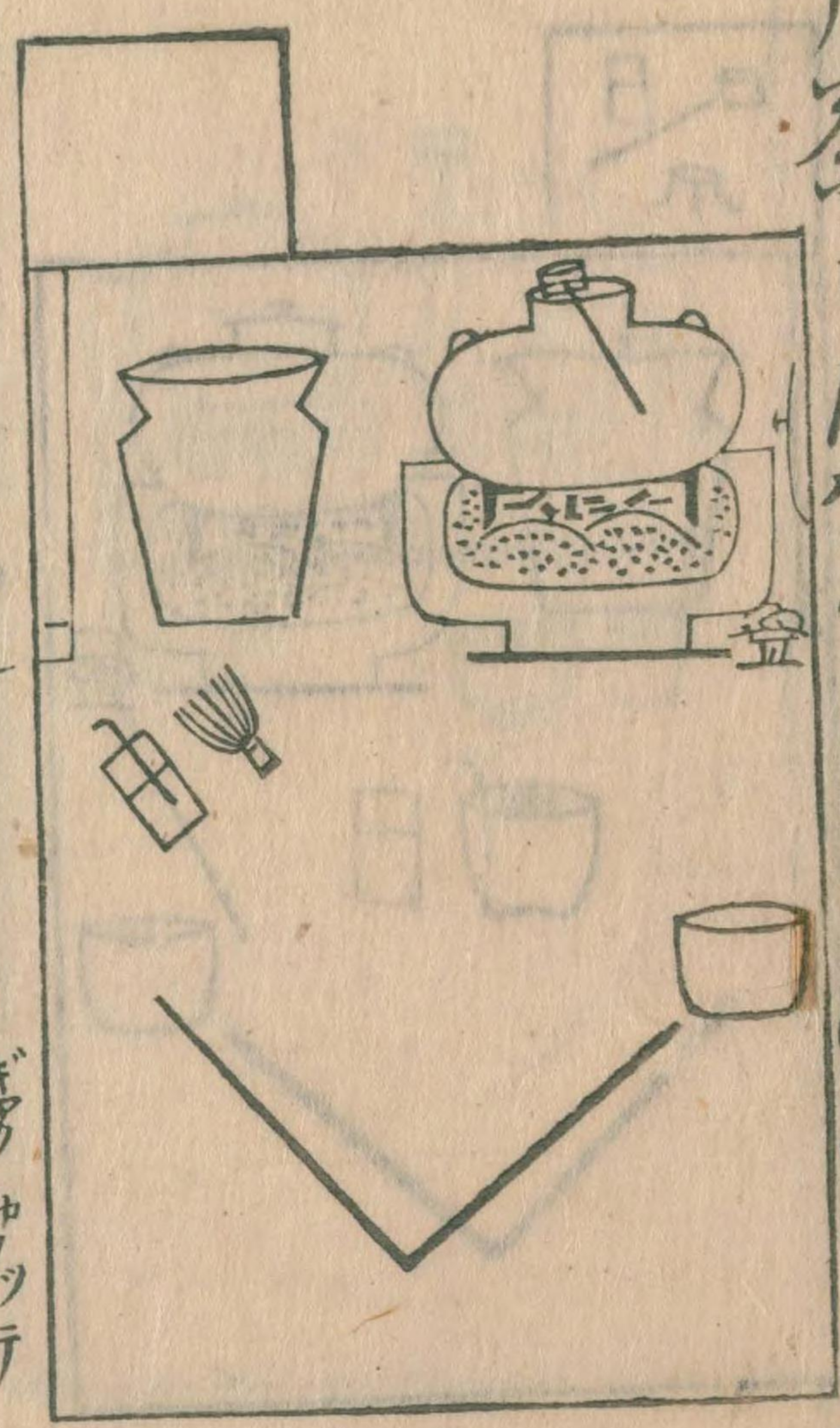
一玉茶まははよのりる事あり一
一山部好む事と致ぬるべし

おがらけの初る下ふか又きかぬもさへ
一汁もかあはれよふよかきさる申しお一 茶湯茶
せんどおしれ此中よ茶中湯を解遠くおくと茶此



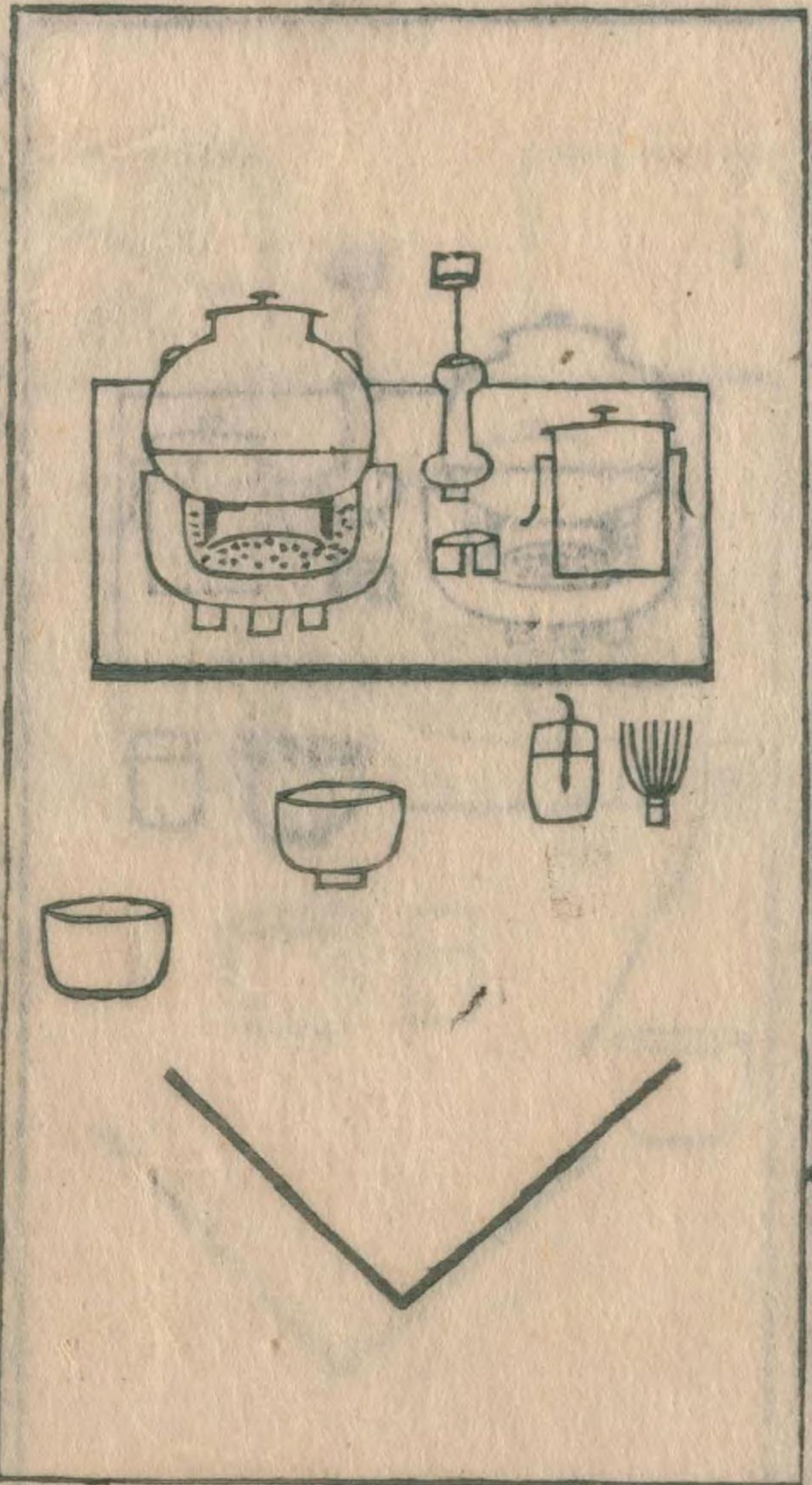
もかき又いふささかよたのす八番は右に描
し振らるはすたれいざい少板通をいお一 茶人あすい

べし中流氏をぬいびのどとせすうのめぬはわ口にれけ
べし茶湯を八筋遠るまきりりて一茶湯此かきさ
おがらよさるべし茶人あすい茶湯と

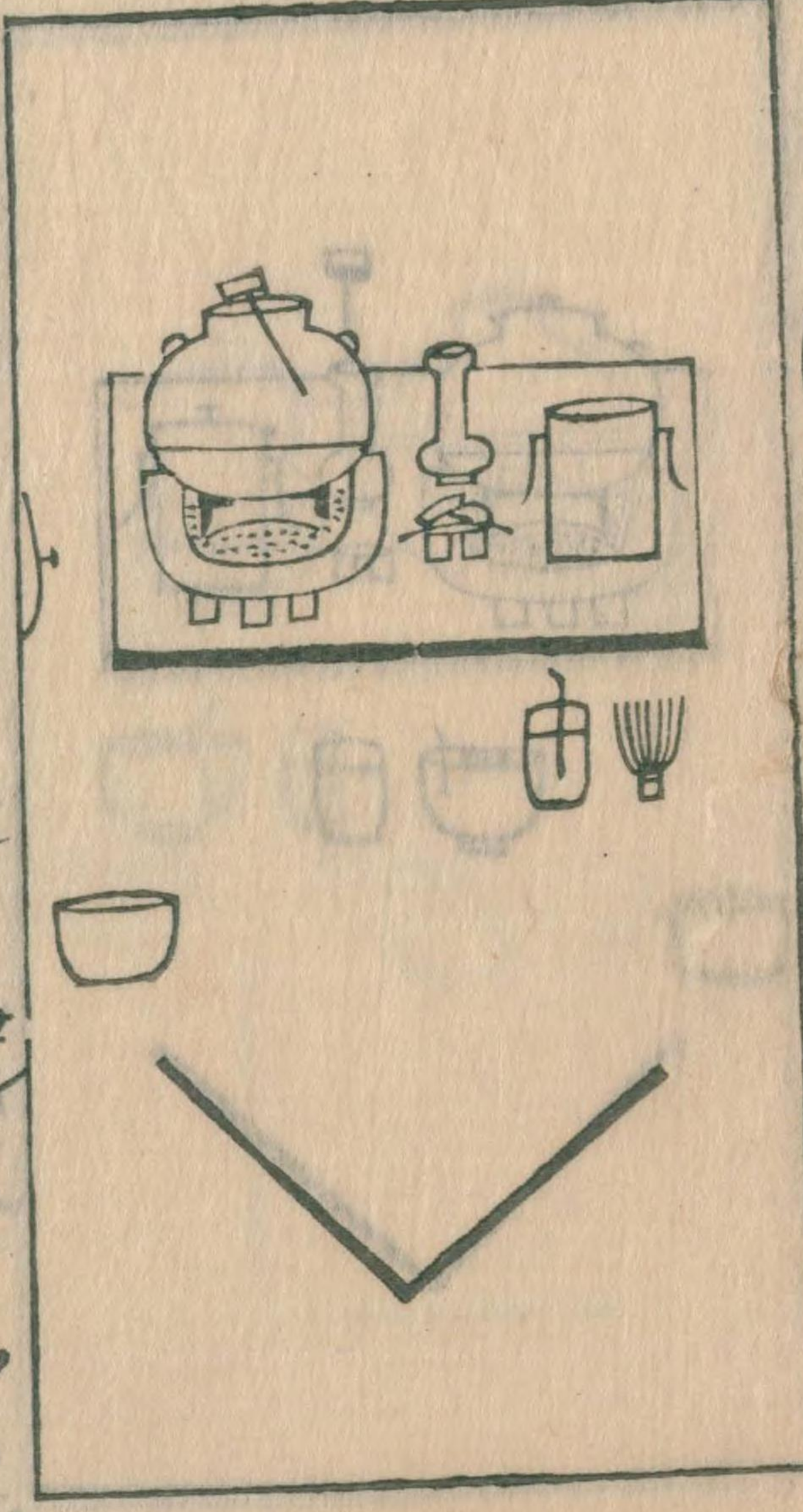


あふぶ茶の野し又あはれはくはのげもか道徳の白也バ
おがらけぬもあるよふか之類してふどまのあは一茶湯
のちおがらよさるべし茶人あすい茶湯と

凡炉の方へ湯をくねおよおき解返せしむる中
 ひき水指の中を動かして割通茶粉巾ひき茶粉を
 らへ湯をくねおよおき解返せしむる中
 と返る此蓋
 此よおき
 ひき右あて
 かりと中をく
 と二枚よぬきこれお湯をくね茶碗よ入ひき茶を
 其のひき茶を湯にひきおろし茶をくね茶
 巾返る此よぬき茶碗返湯にひき茶巾



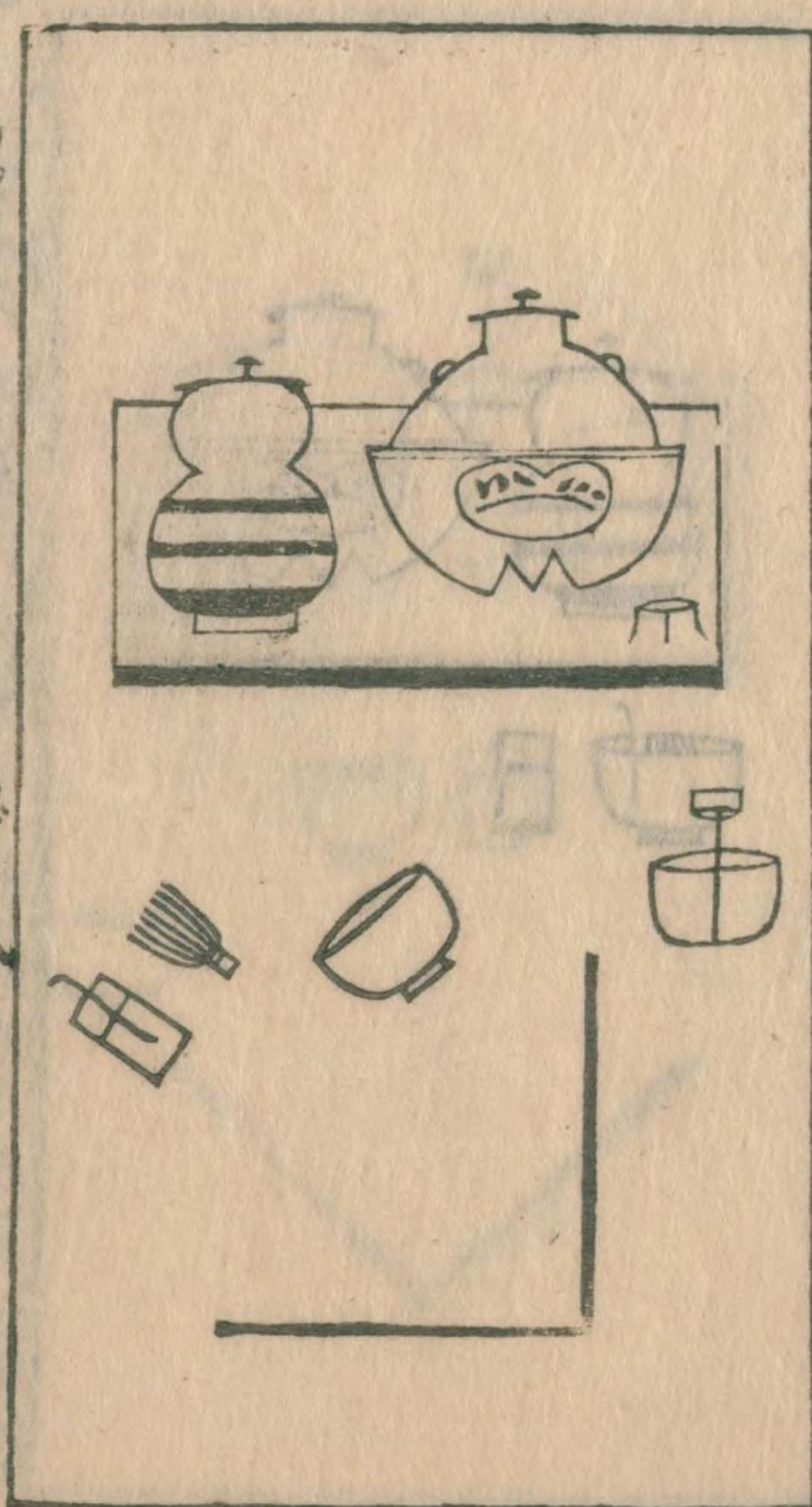
てこの蓋よおきさうく返る茶をくね割がてよおき茶を
 茶碗よ入ひき茶をくねおき解返せしむる中
 湯をくねおよおき解返せしむる中
 と返る此蓋
 此よおき
 ひき右あて
 かりと中をく



湯をくねおよおき解返せしむる中
 ひき水指の中を動かして割通茶粉巾ひき茶粉を
 らへ湯をくねおよおき解返せしむる中
 と返る此蓋
 此よおき
 ひき右あて
 かりと中をく

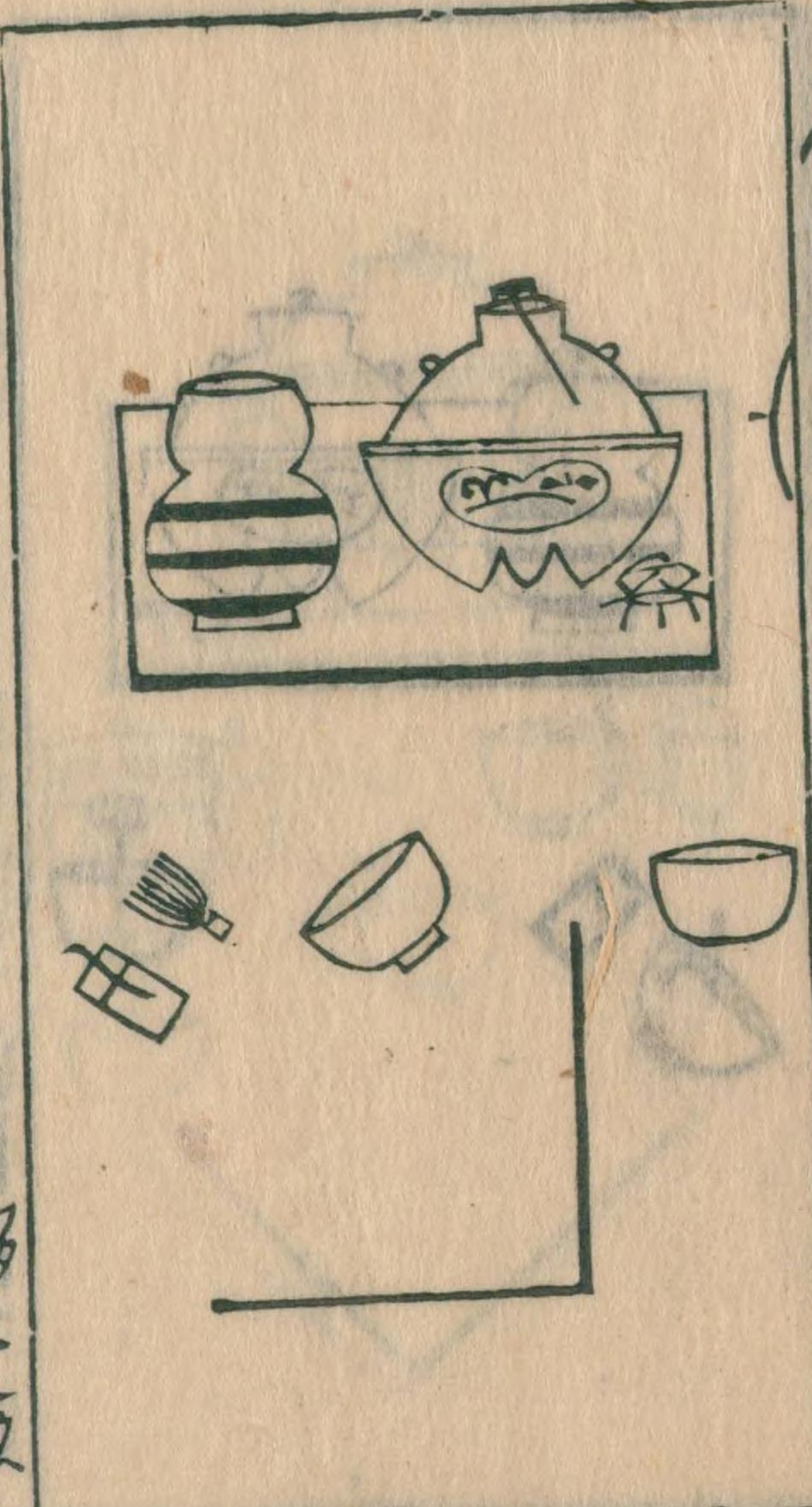


帛摺ヒツよきとて茶巾チキンよじやく丸斬マルキリ湯ユを入ひてき
よけし時おまびやくて茶釜チカを湯ユにゆて巾チキンよき
茶巾チキンよじやく茶釜チカを湯ユにゆて巾チキンよき



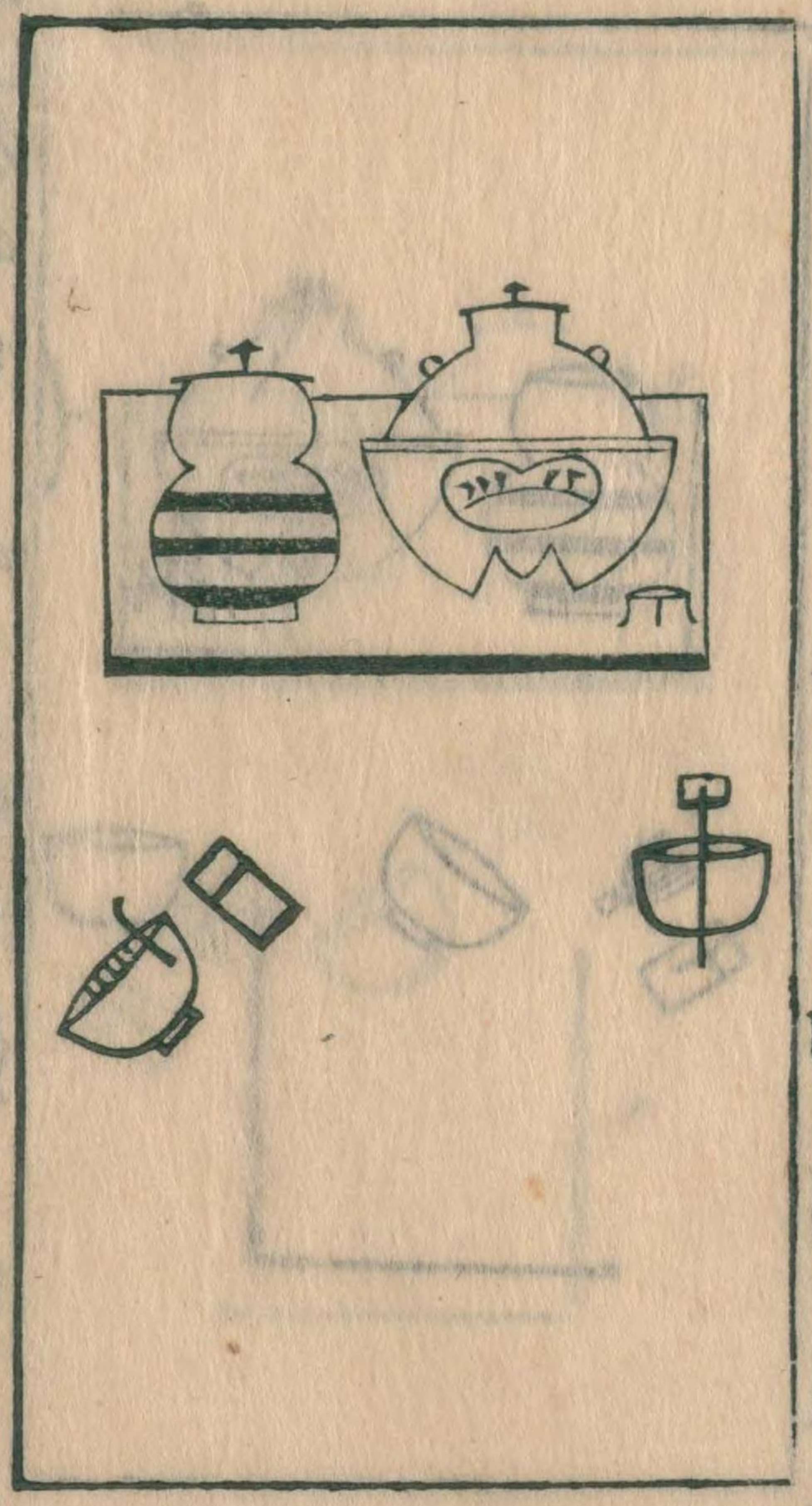
枚ヒツ取ヒツ茶釜チカを湯ユにゆて巾チキンよきとて茶釜チカを湯ユにゆて巾チキンよき
蓋フタ取ヒツ茶釜チカを湯ユにゆて巾チキンよきとて茶釜チカを湯ユにゆて巾チキンよき
いきじやくて茶釜チカを湯ユにゆて巾チキンよきとて茶釜チカを湯ユにゆて巾チキンよき

巾チキンよきとて茶巾チキンよじやく丸斬マルキリ湯ユを入ひてき
茶巾チキンよきとて茶巾チキンよじやく丸斬マルキリ湯ユを入ひてき
下シタの茶巾チキンよきとて茶巾チキンよじやく丸斬マルキリ湯ユを入ひてき



茶釜チカよきとて茶巾チキンよじやく丸斬マルキリ湯ユを入ひてき
大オホなる茶巾チキンよきとて茶巾チキンよじやく丸斬マルキリ湯ユを入ひてき
茶巾チキンよきとて茶巾チキンよじやく丸斬マルキリ湯ユを入ひてき

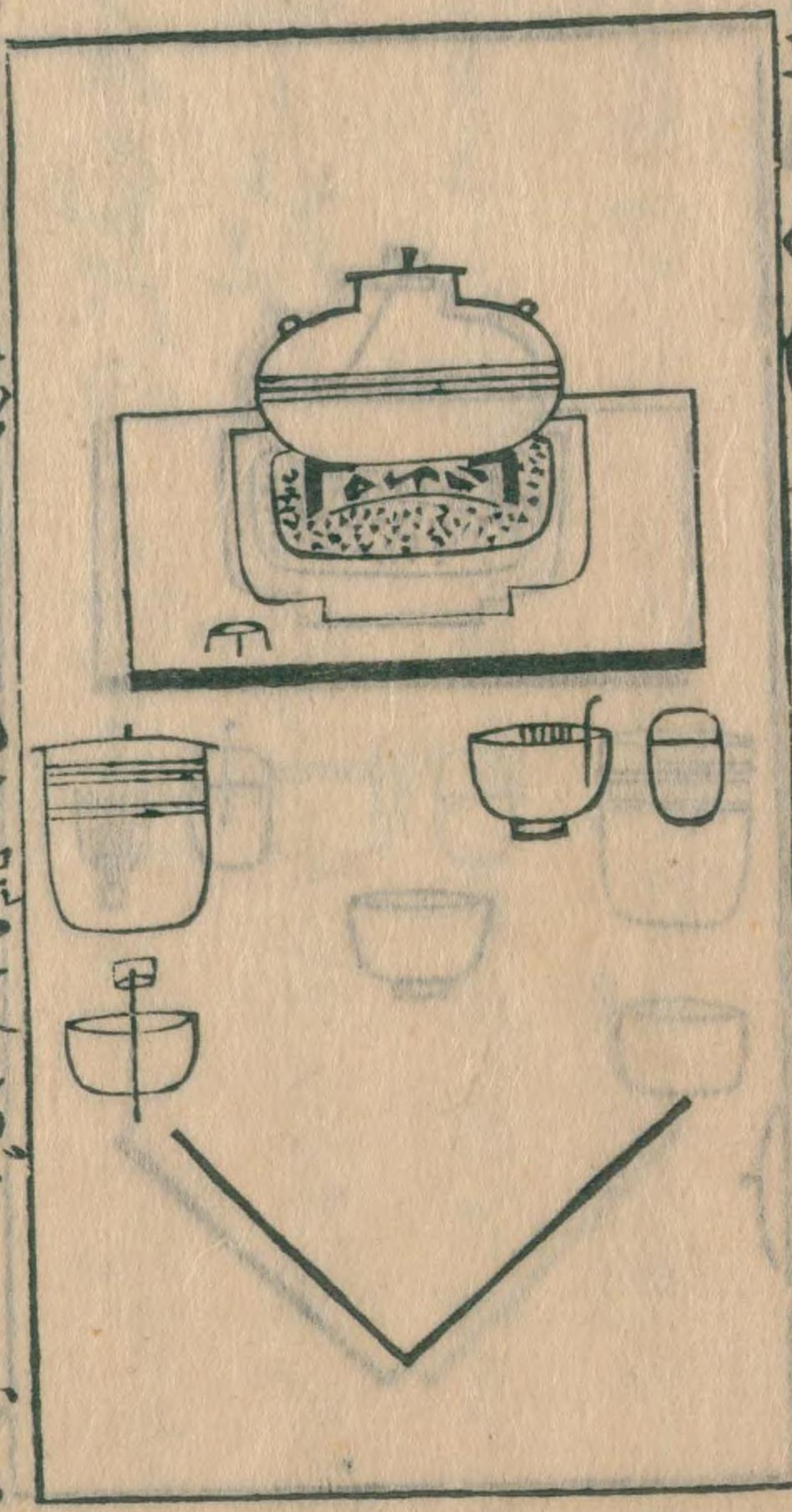
くさるる^{コサ}し^シ治^チめよと^トの^ノら^ラの^ノ事^{コト}の^ノ何^ニも^モ茶^チの^ノけ^ケ物^{モノ}
と^ト及^ツる^ル水^{ミヅ}と^トも^モの^ノ治^チめよと^トも^モ茶^チの^ノけ^ケ物^{モノ}
に^ニつ^ツて^テし^シの^ノ治^チめよと^トも^モ茶^チの^ノけ^ケ物^{モノ}



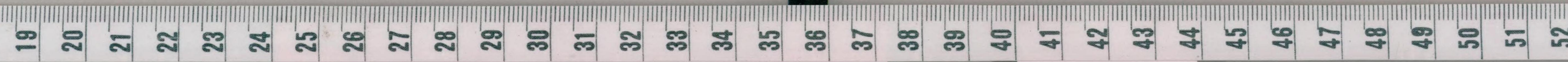
の^ノ茶^チの^ノけ^ケ物^{モノ}と^トも^モの^ノ治^チめよと^トも^モ茶^チの^ノけ^ケ物^{モノ}
と^ト及^ツる^ル水^{ミヅ}と^トも^モの^ノ治^チめよと^トも^モ茶^チの^ノけ^ケ物^{モノ}

長板^{ナガイタ}まの^{マノ}茶^チの^ノけ^ケ物^{モノ}

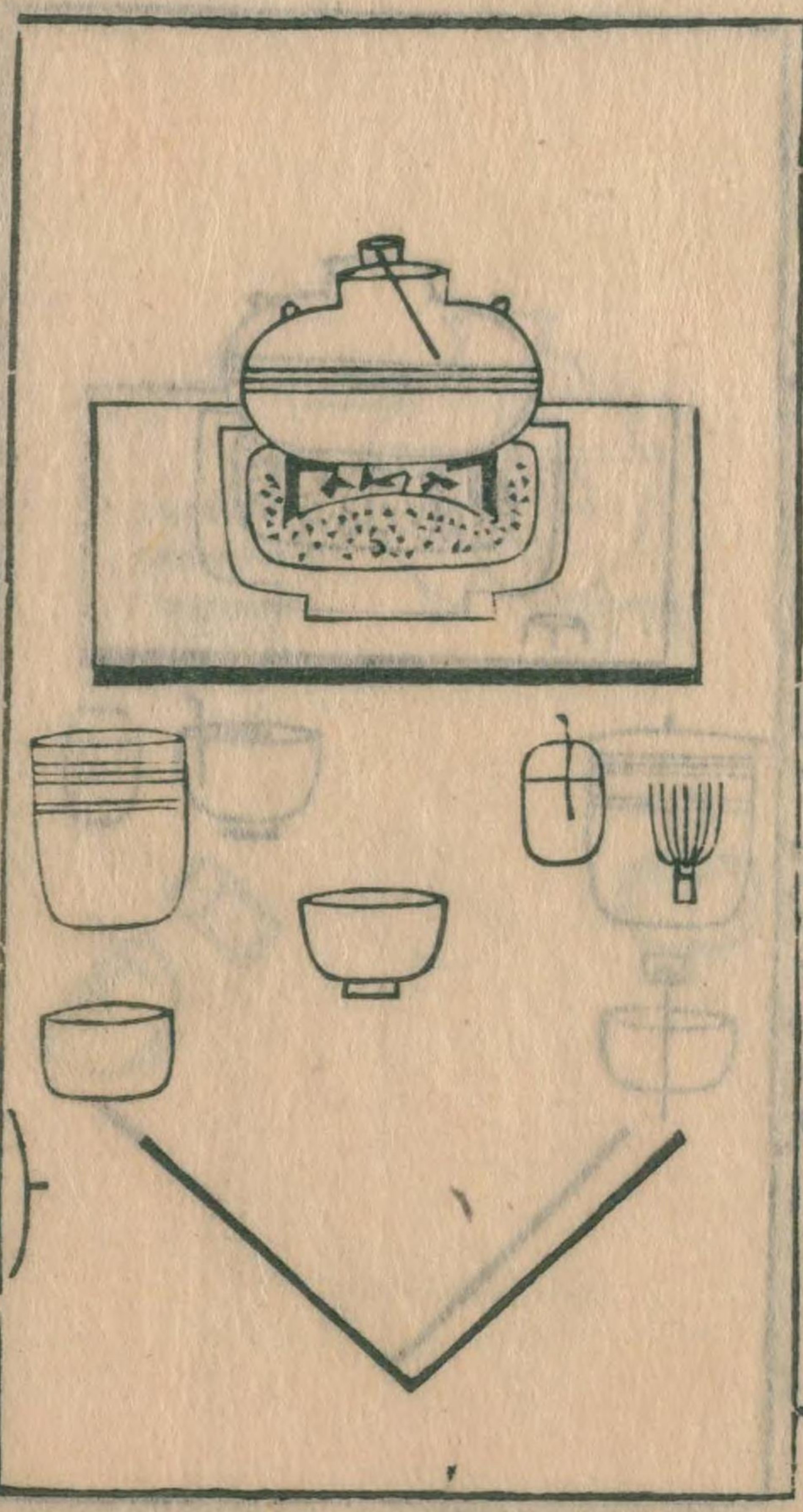
一^{ヒト}此^{コノ}の^ノ茶^チの^ノけ^ケ物^{モノ}と^トも^モの^ノ治^チめよと^トも^モ茶^チの^ノけ^ケ物^{モノ}
と^ト及^ツる^ル水^{ミヅ}と^トも^モの^ノ治^チめよと^トも^モ茶^チの^ノけ^ケ物^{モノ}



の^ノ茶^チの^ノけ^ケ物^{モノ}と^トも^モの^ノ治^チめよと^トも^モ茶^チの^ノけ^ケ物^{モノ}
と^ト及^ツる^ル水^{ミヅ}と^トも^モの^ノ治^チめよと^トも^モ茶^チの^ノけ^ケ物^{モノ}



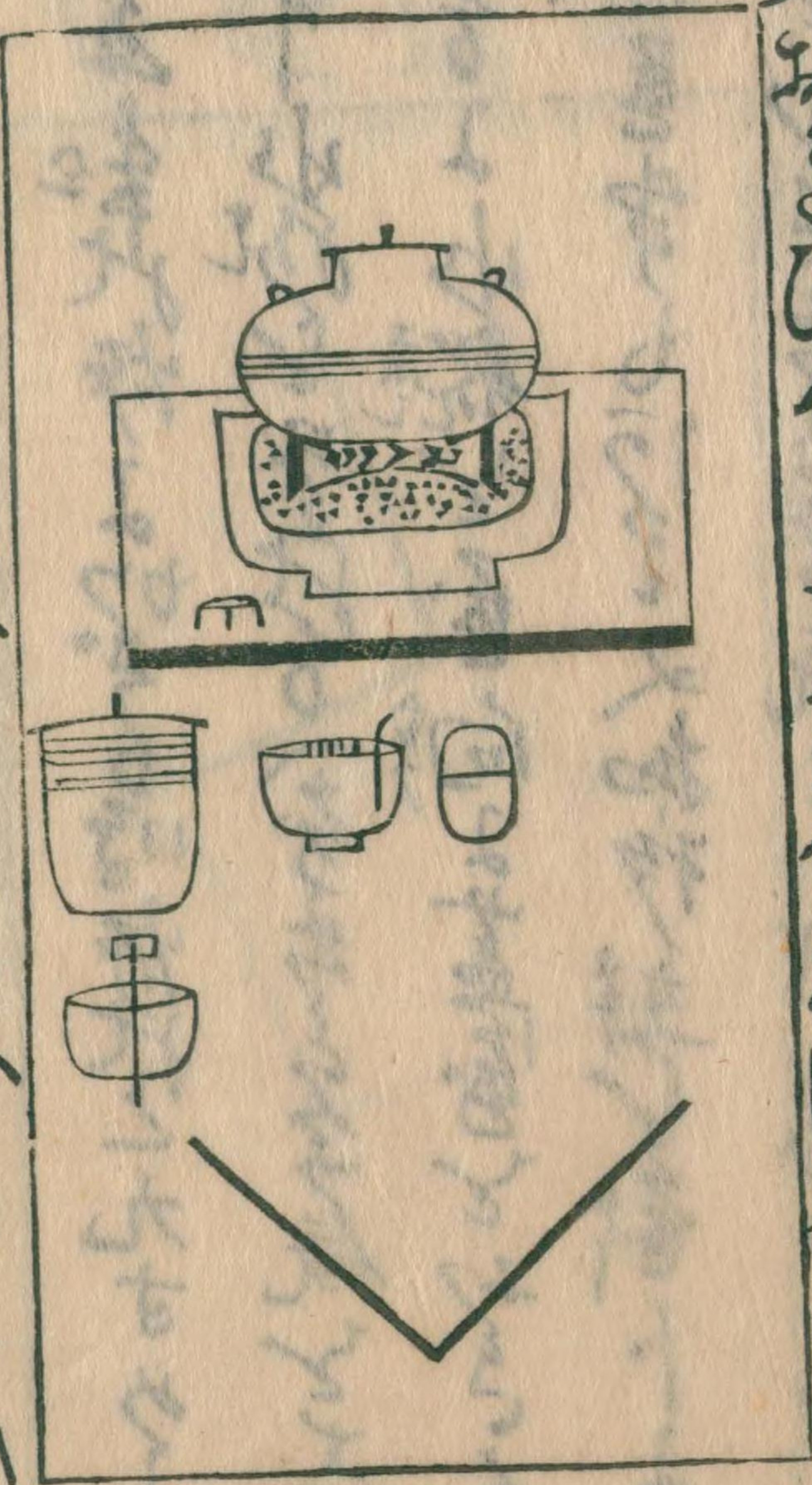
此湯の如くは茶抄中のいけ茶を煮たけりし
るは蓋反茶中上げやぐらぬて取し茶湯入
るは茶湯の如くは茶抄中のいけ茶を煮たけりし



碗と湯抄中のいけ茶を煮たけりし
蓋を反茶中上げやぐらぬて取し茶湯入
るは茶湯の如くは茶抄中のいけ茶を煮たけりし

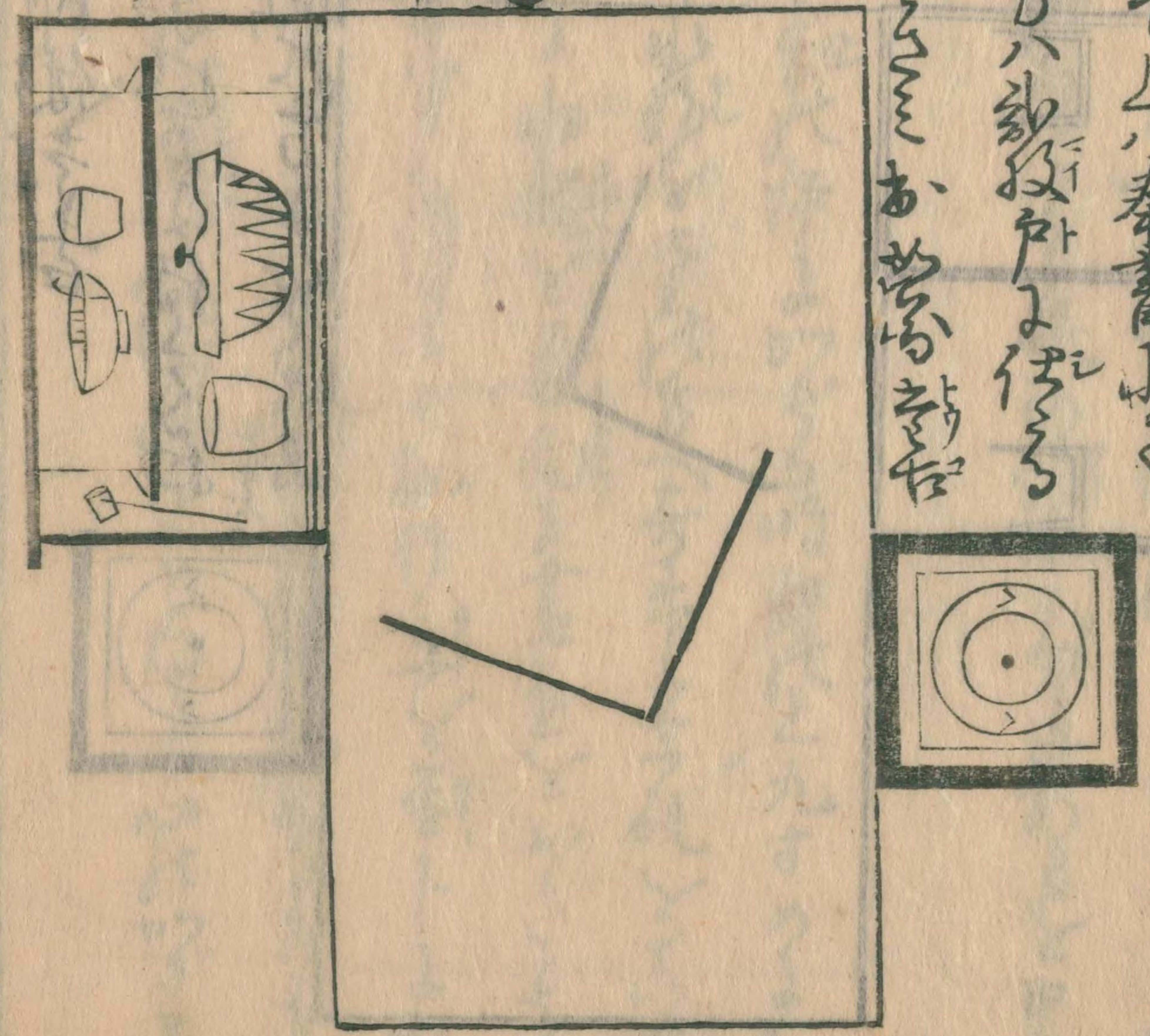
おろしへいけがらしく右に

一湯め茶碗の湯と入さききしへ又湯を
入水を入
もらハ冬入

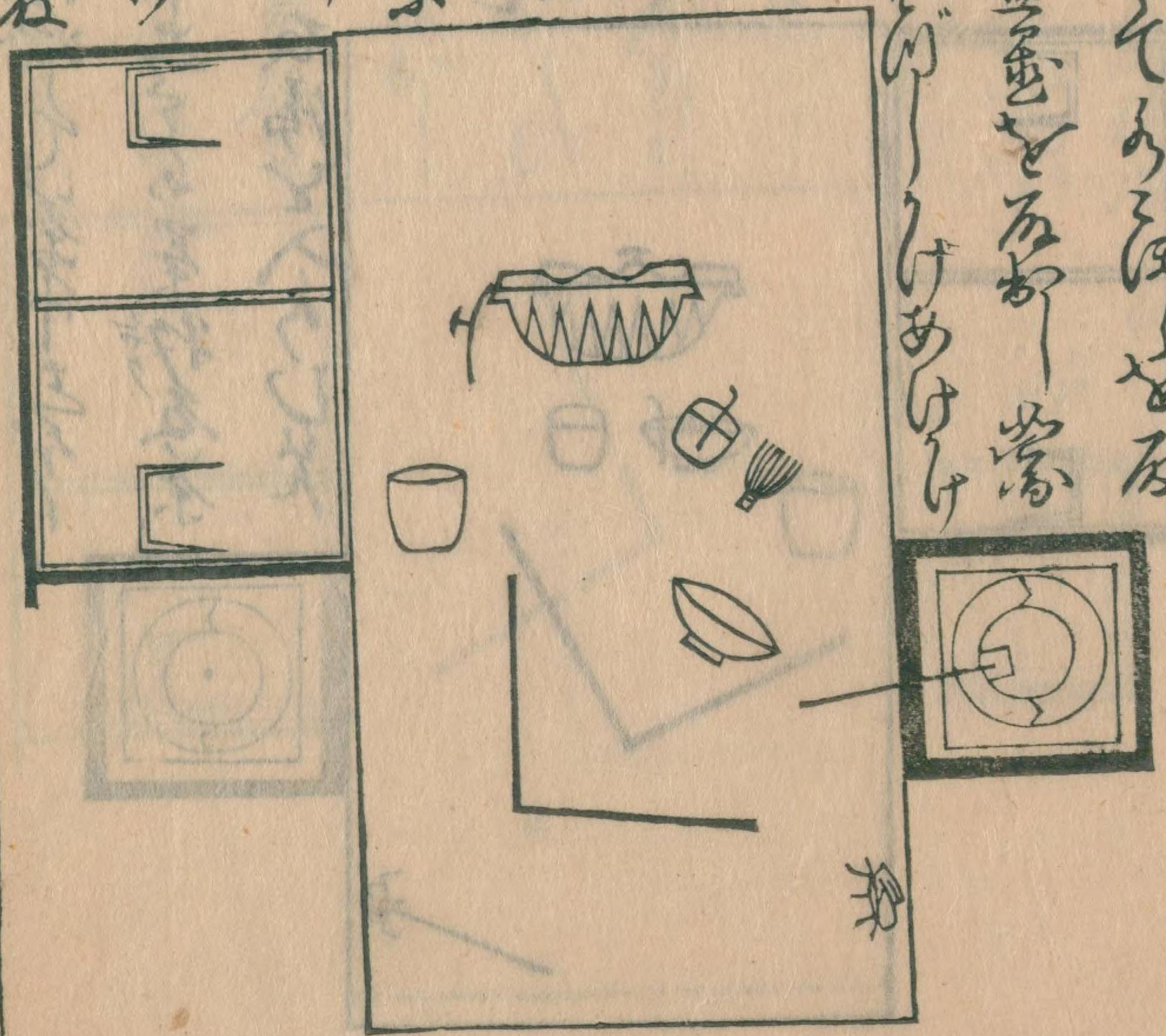


此湯の如くは茶抄中のいけ茶を煮たけりし
るは茶湯の如くは茶抄中のいけ茶を煮たけりし
ひやハ水が

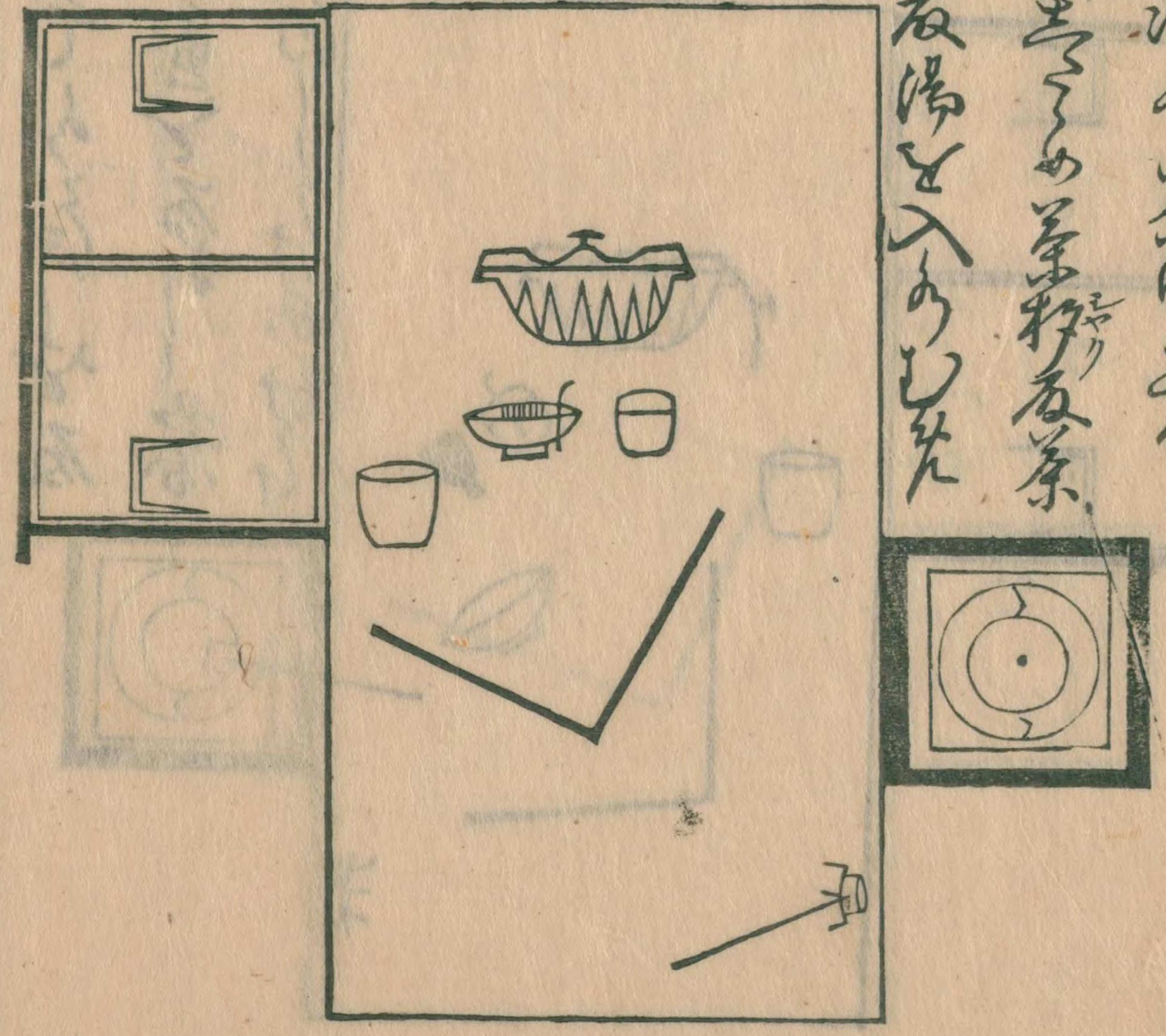
たいこぎとよよしへ上へ奉書少く
 張たるぬはれは八段敷戸は伊る
 おし腰の解とんくもあまのき
 官の影を分陽子
 とあ言ほけさ
 ちのし水た
 ちて茶の碗と茶
 所とゆねあ
 ちあおれをぬ



おきし器はつとてあまのきと反
 おし中ある蓋蓋を反部
 おきしけとてあまのきと反
 たる外とてあまのきと反
 たる外とてあまのきと反
 茶の碗とてあまのきと反
 茶の碗とてあまのきと反
 茶の碗とてあまのきと反
 茶の碗とてあまのきと反
 茶の碗とてあまのきと反
 茶の碗とてあまのきと反

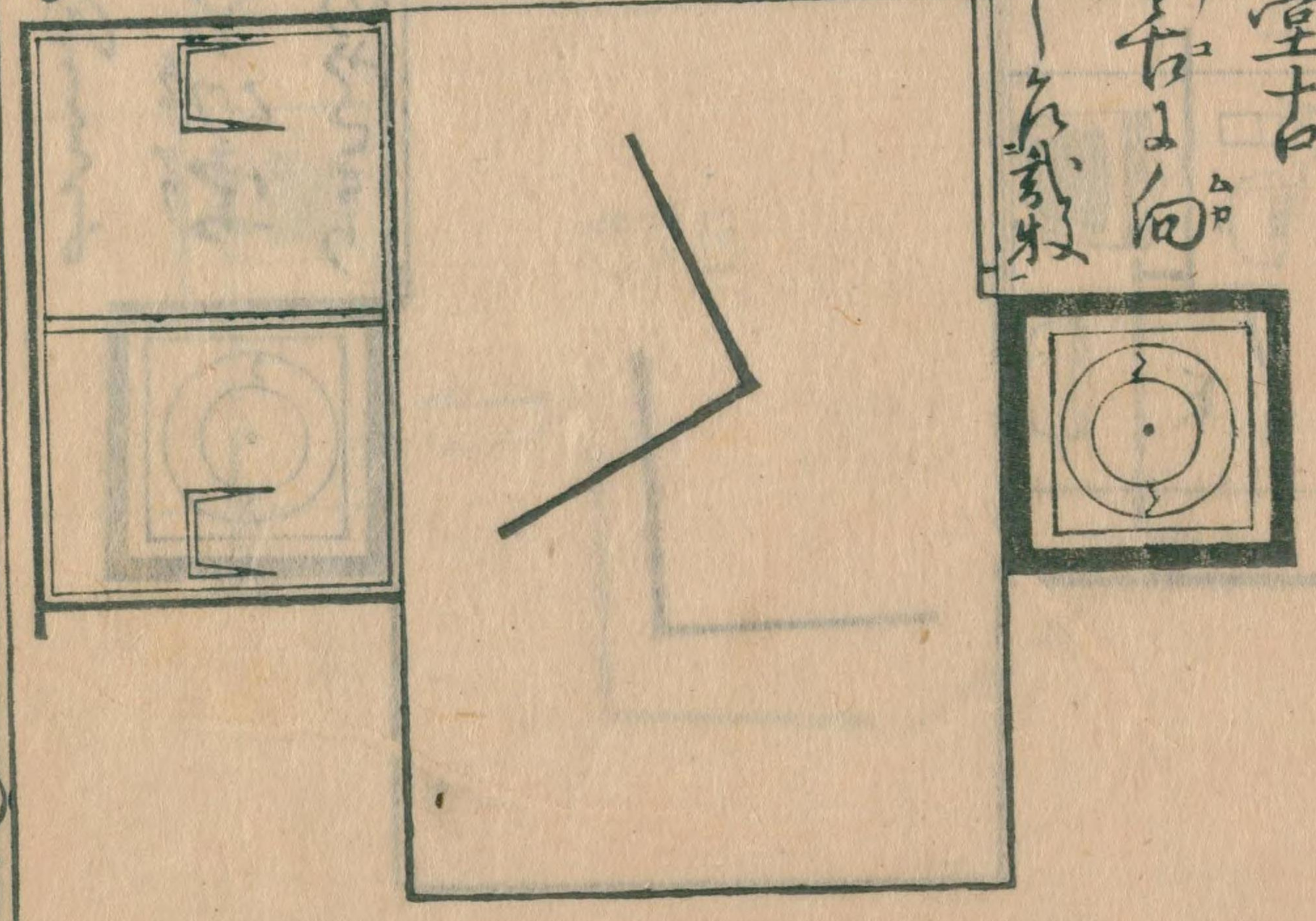


湯を入茶室を湯治して茶巾をとり
 湯掬中の茶巾をさして茶粉を茶
 室に入出此蓋反湯を入めし
 茶室を夜ゆか
 と茶室をさして
 定湯めよ
 茶室をさして
 中本文系をさ
 入へ一掃の戸を
 何れも入る

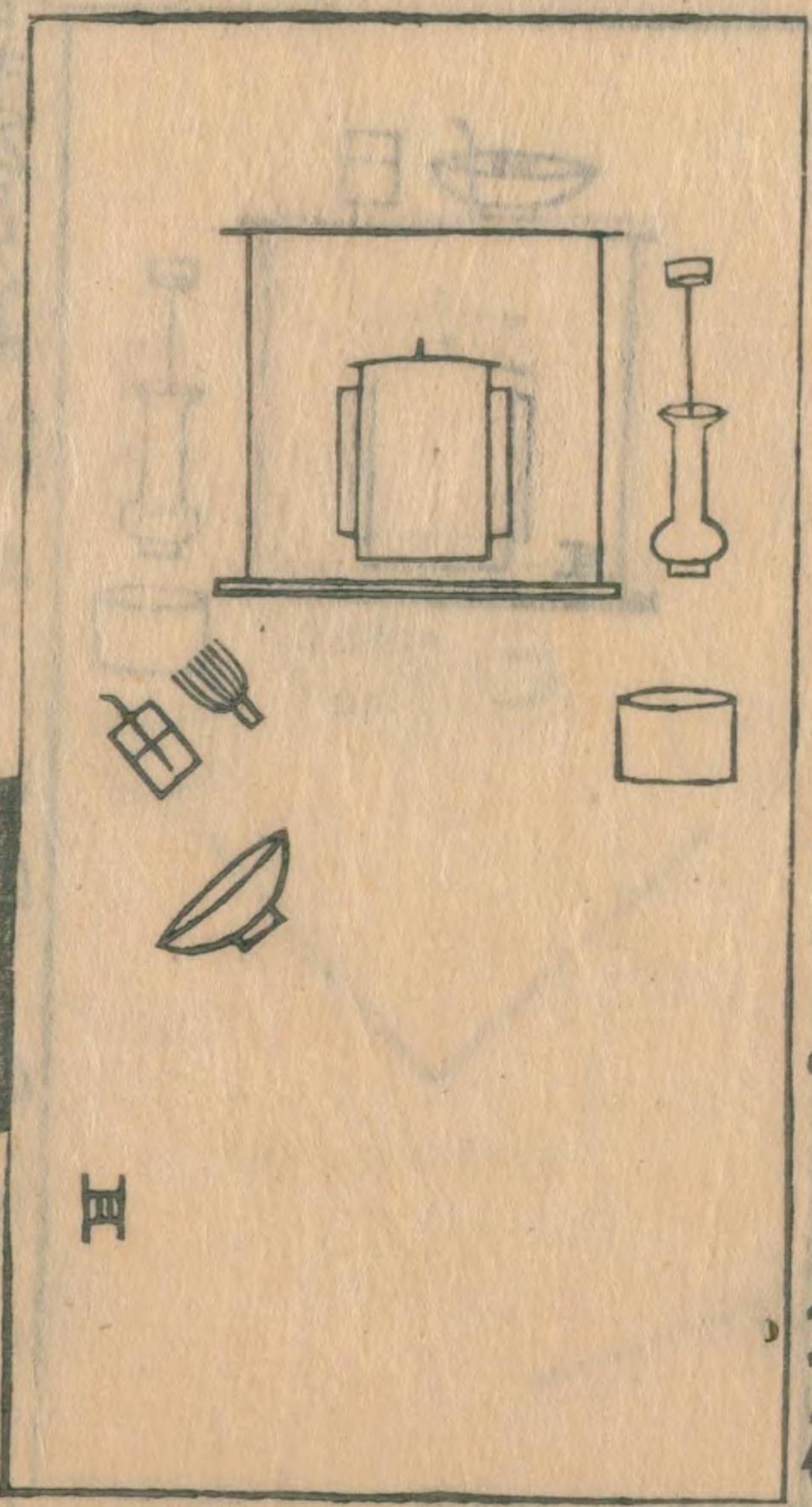


三疊大 織部堂古

一帛腰をさして茶室をさして
 ひあふより茶室をさして
 膳中へおきへ
 中茶室をさして茶室をさして
 か飯を蓋をさして
 掃きけ水を茶室へ
 吾はのさして茶室を
 あ一帛をさして茶室
 ひあふより茶室を

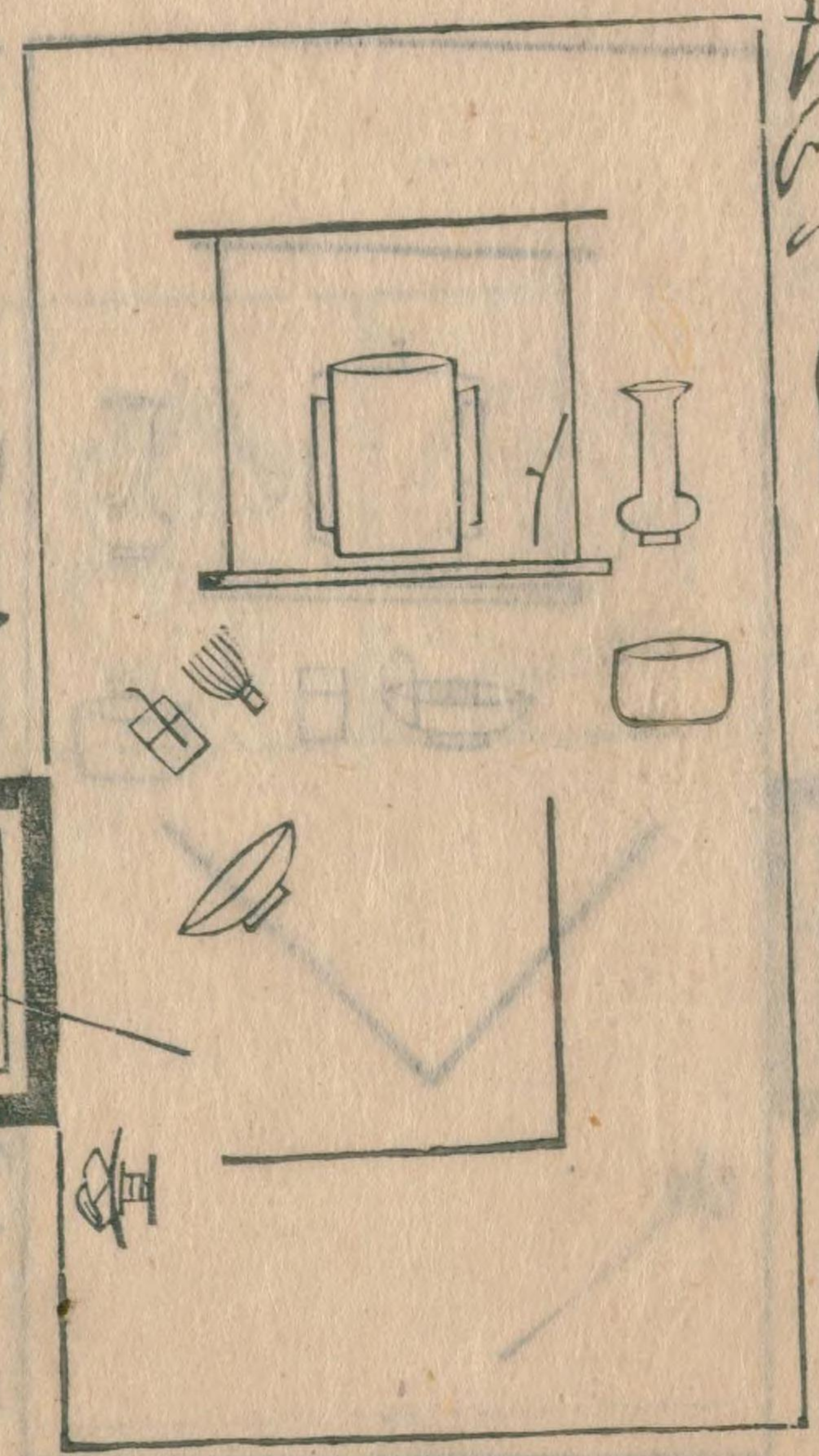


あへ蓋置反あふ蓋置にゆき茶を此蓋と反茶巾つけ
ひやく二候よぬき丸茶湯とて茶をひやくかけ茶を
反湯煎するに上茶巾をゆき茶をゆき茶をゆき茶を



巾ひ下より茶を茶巾にゆき茶を
上茶巾をゆき茶をゆき茶を
ゆき茶をゆき茶をゆき茶を

茶をゆき茶をゆき茶をゆき茶を
ゆき茶をゆき茶をゆき茶を
ゆき茶をゆき茶をゆき茶を



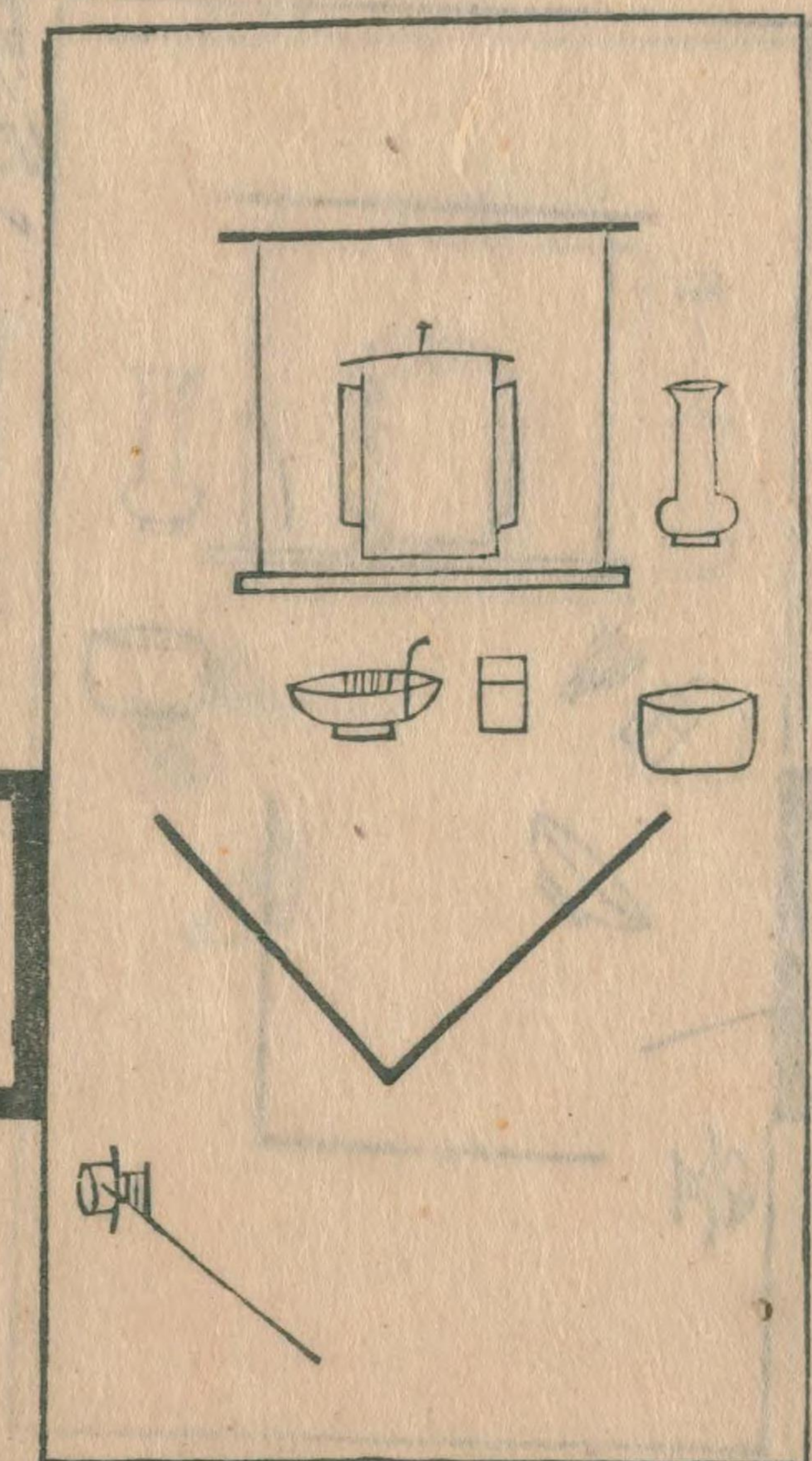
一治茶をゆき茶をゆき茶を
ゆき茶をゆき茶をゆき茶を
ゆき茶をゆき茶をゆき茶を



ひげ中治きしる多統をよめあひくろ水二をさし
る此蓋をしりびくろ水一そまひりあ指はさき
たゆくびくろ指物とよし一中治多統物へ水が

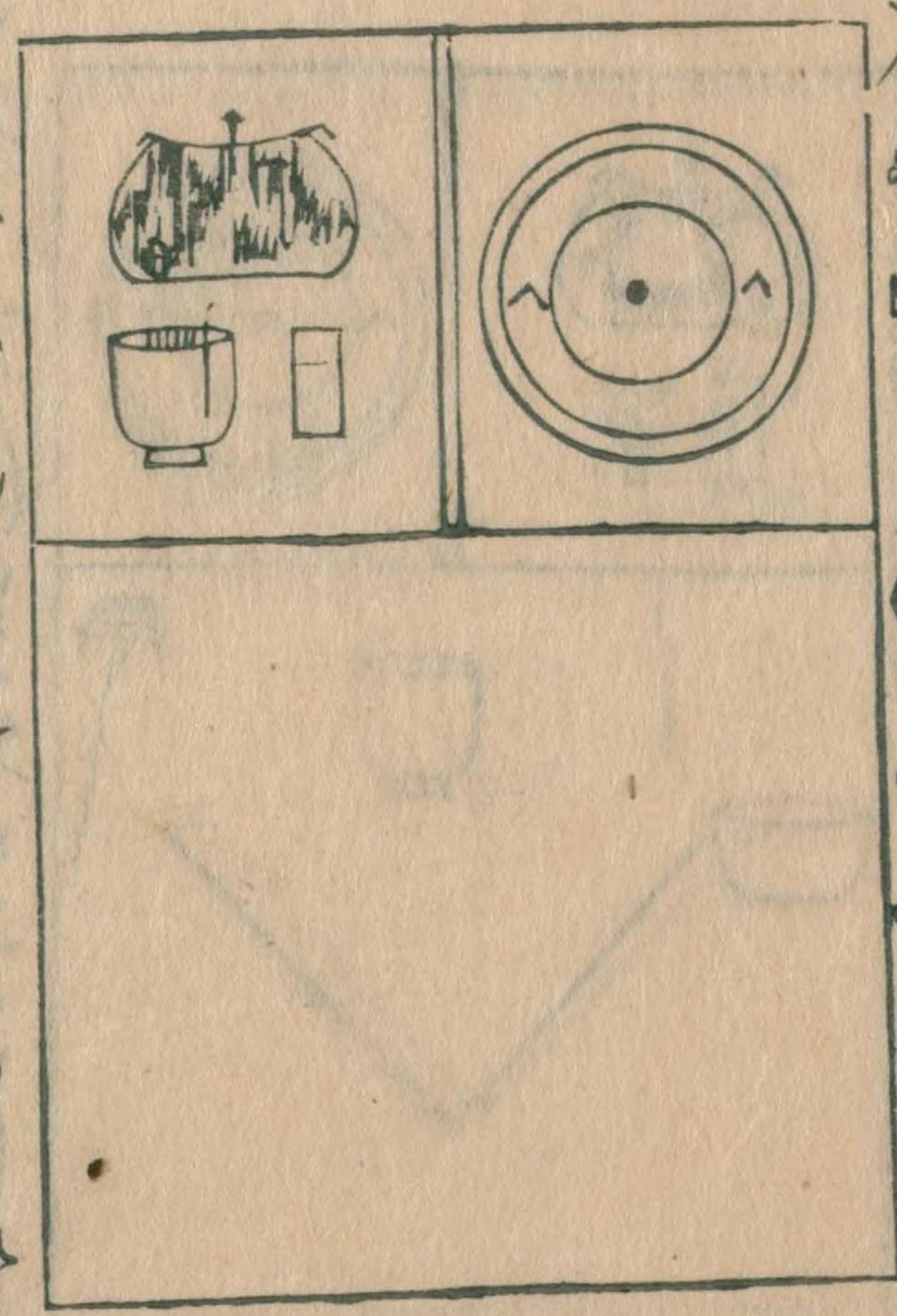
るま

一白く此物ゆりれ物ゆいぬい
茶とあつるゆもろくは



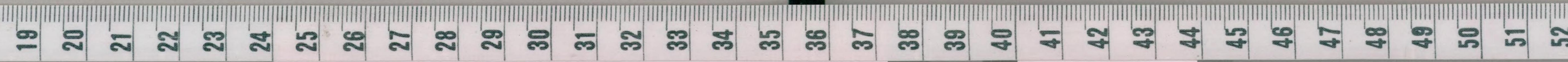
向切きの堂古

一此茶の堂古と総ハ縁よりあま
丸き銅は物を入るま



後此用事と遊るゆり
げきちとせらるる
ひく蓋出入物もあま

廿七

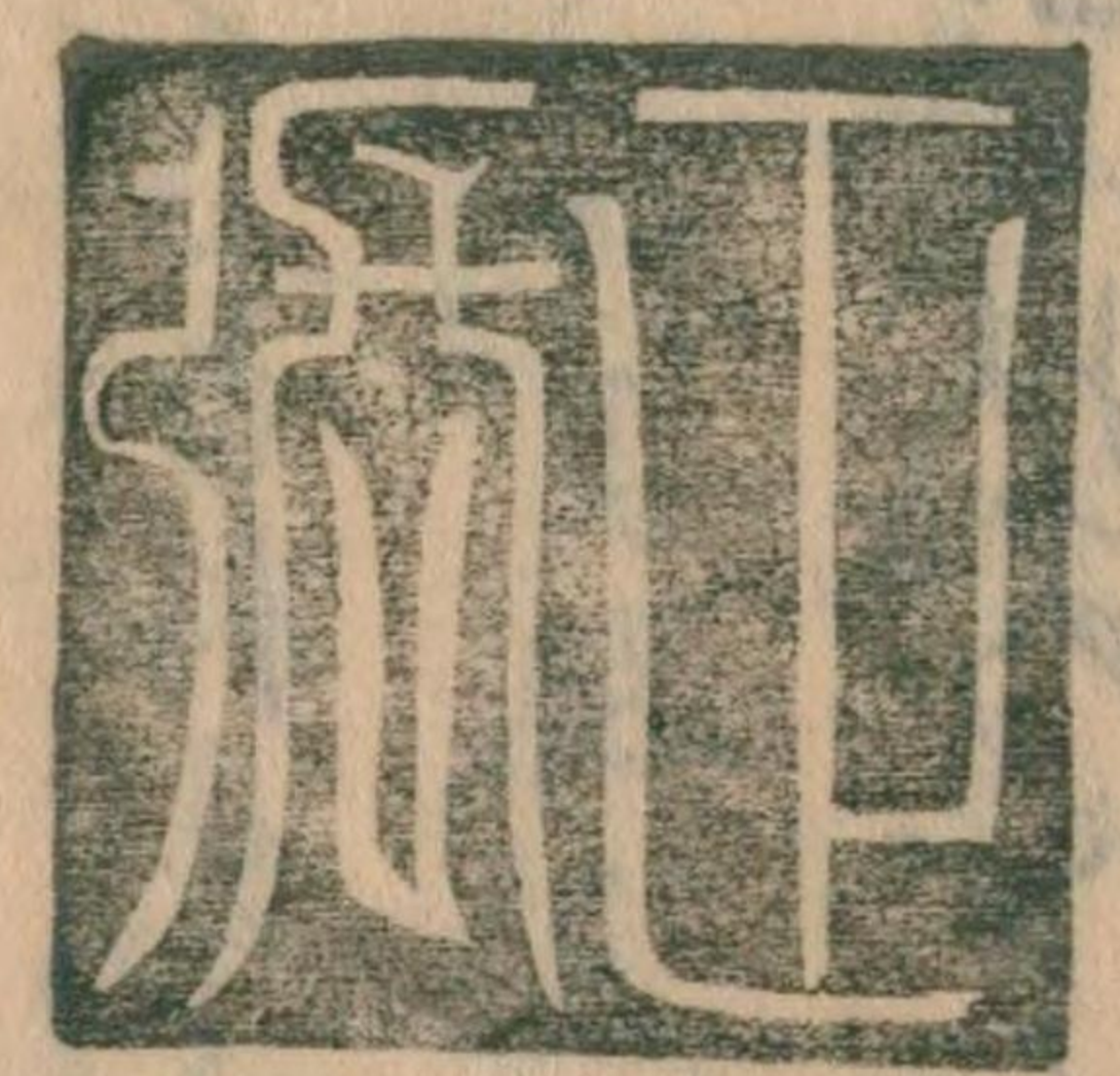


858
24

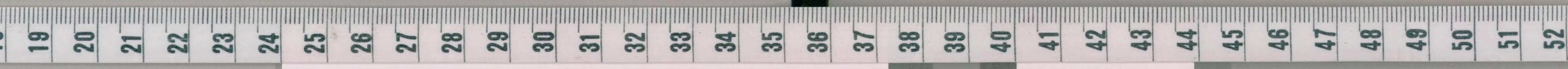
書進^カ此^ニ一^ニ巻^ノよ^リ出^ス入^ルを^シて^ハ又^モ皇^ノ都^ニ此^ノ名^ノ敷^キ者^ハ圖^ニ此^ノ名^ノを^シて
一^ニ名^ノ此^ノ名^ノを^シて^ハ又^モ皇^ノ都^ニ此^ノ名^ノ敷^キ者^ハ圖^ニ此^ノ名^ノを^シて
可^シま^スる^ト也^{ナリ}

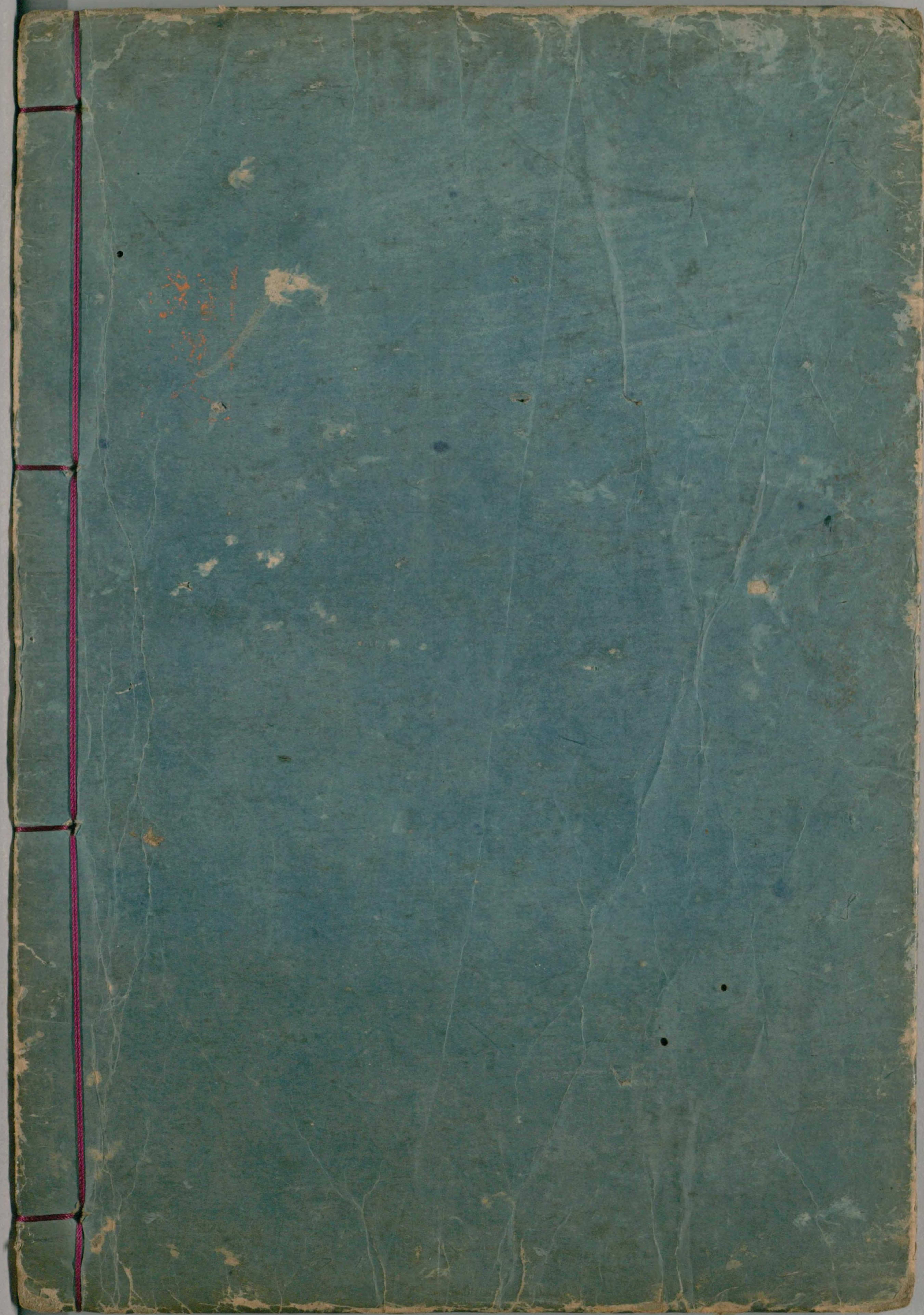
遠藤元閑

遠藤元閑敬白



[Faint background text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]





国立国会図書館 タイトル『茶湯評林 9巻』 請求記号 858-24

ガラス使用